

富士市中小企業景況調査結果

令和5年度 第1四半期【令和5年4月～6月】

令和5年7月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、208事業所(回収率67.3%)を対象に、「令和5年4月～6月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和5年1月～3月 今期…令和5年4月～6月 来期…令和5年7月～9月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き		↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)	来期予測
業況	▲19.4	↗	▲8.4 (▲21.4)	→ ▲9.2
売上	7.1	↗	13.9 (▲12.1)	→ 10.7
採算	▲40.3	↗	▲14.6 (▲30.0)	→ ▲15.2

今期調査では、全産業合計の業況DIが+11ポイント、売上DI+6.8ポイント、採算DIが+25.7ポイントの改善となった。来期の予測について業況・売上・採算DIのいずれも横ばいの予想となった。産業別の来期業況DIは、製造業・卸売業が上昇、建設業・サービス業は横ばい、小売業は下降を予想。売上DIは、サービス業は上昇、卸売業は横ばい、製造業・建設業・小売業は下降を予想。採算DIは卸売業・サービス業は上昇、建設業は横ばい、製造業、小売業は下降を予想となった。

全体を通して、バラつきはあるが「人流増」「受注増」「業務多忙」等前向きなコメントが増えており、コロナ5類移行後のプラスの影響が出始めているようだ。一方で、値上げ交渉に苦戦している業者が多く、物価高騰の影響を解消できていない様子が見取れる。

経営上の問題点では、製造業・卸売業・小売業では「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、建設業では「人材不足」、サービス業では「販売価格値上げ難」がそれぞれ1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 建設業、小売業、サービス業は上昇。卸売業は横ばい。製造業は下降。

来期予想は、製造業、卸売業が上昇。建設業、サービス業は横ばい。小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲26.5	↘	▲34.2 (▲39.4)	↗	▲28.9
建設業	▲19.2	↗	0.0 (▲31.0)	→	0.0
卸売業	▲8.7	→	▲10.5 (▲11.5)	↗	5.3
小売業	▲20.0	↗	0.0 (▲13.0)	↘	▲29.4
サービス業	▲19.2	↗	14.3 (▲6.9)	→	10.3
全産業	▲19.4	↗	▲8.4 (▲21.4)	→	▲9.2

〔売上高のDI〕 製造業、建設業は上昇。卸売業、小売業、サービス業は下降。

来期予想は、サービス業は上昇。卸売業は横ばい。製造業、建設業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲14.7	↗	13.2 (▲26.5)	↘	5.2
建設業	▲19.2	↗	14.8 (▲21.4)	↘	3.5
卸売業	23.9	↘	15.8 (▲14.8)	→	15.8
小売業	30.0	↘	17.7 (▲4.3)	↘	▲17.7
サービス業	29.7	↘	10.3 (10.4)	↗	38.0
全産業	7.1	↗	13.9 (▲12.1)	→	10.7

〔採算のDI〕 製造業、建設業、小売業、サービス業は上昇。卸売業は横ばい。

来期予想は、卸売業、サービス業は上昇。建設業は横ばい。製造業、小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲61.7	↗	▲26.3 (▲58.8)	↘	▲34.2
建設業	▲42.3	↗	▲10.7 (▲39.3)	→	▲10.8
卸売業	▲21.7	→	▲21.1 (▲15.4)	↗	▲10.5
小売業	▲40.0	↗	▲11.8 (▲13.1)	↘	▲29.4
サービス業	▲27.0	↗	0.0 (▲13.8)	↗	10.4
全産業	▲40.3	↗	▲14.6 (▲30.0)	→	▲15.2

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…総じて家庭紙需要の回復に関する声が多かった。「原材料の価格上昇分の全てを販売価格に転嫁できないまま、市場は既に値上げは終了という雰囲気になってしまった。エネルギー高騰の鎮静化を待つのみという他人任せの状態である」「前年同期と比較して売上高は増えてはいるが、価格改訂が要因であり生産量は減少している。家庭紙は長尺化が進み、シングルのコンパクトタイプが市場では人気。原燃料価格の上昇に伴い、あらゆる経費が増大し再度値上げ交渉を予定している」「販売量は下がり基調、販売単価は4月より上昇。ガスは下がり基調、電気は上がり基調。古紙原料は下がり基調」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「満額の価格改訂は出来ないが、価格が上がったことで、省包装やペーパーレスの流れが加速しており、将来にいい材料はない」「経済活動の再開でインバウンド需要が高まり、業務用のトイレットペーパーの受注が増加して良い傾向である。コロナ感染の第9波が懸念されるが、経済を止めないことを切に願う」「家庭紙以外の需要低迷による販売量の減少で、採算が悪化していく。製品在庫も溜まり基調」とのコメントが寄せられた。

『紙加工』…総じてコスト増加と需要減少に関する声が多かった。「加工賃の値上げにより利益率は改善している。受注量は一定しないが前期並みは確保できる」「コロナ禍から抜け出した感があり、人流も戻りつつあるため製品不足が生じている」「原材料価格の高騰により収益は悪化している。コロナの影響は収まってきているが、コロナ前には戻っておらず需要は低迷したまま。物価高騰により消費は低調であるため、販売数量が少ない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「光熱費の高騰、原材料費の高騰に加え運送費の高騰、運送手段の確保等、先行き不透明要因が多々あり、見通しが立たない」「このままコロナ前の水準に戻ると思われる。コピー用紙に関しては、構造の変化でペーパーレスが進み市場が更に縮小している」「コロナの終息、インバウンド需要増、消費拡大が実現すれば、生産・販売量も増加していく」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて自動車業界の動向や製造コストの増加を不安視する声寄せられた。「基幹産業の自動車業界の低迷により、工作機械・一般機械の売上減少が続いている」「海外向けのマリン（船外機）が好調であり、この傾向はしばらく続きそうである」「昨年から続き、半導体不足の影響が売上減につながっている。機械の修理も部品不足で納期が長期化している。コロナの影響は、ひとまず落ち着いてきた感じが見受けられる」「自動車業界は、100年に一度の大変革期に当たっており、欧米中との開発競争で疲弊しており、将来は暗中模索である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「世界的な金融不安が解消されないと、全体の動きが停滞してしまう」「当社のような製造業には共通しているが、従業員の高齢化に対しなかなか代謝が進まない。また、電気代、材料費等の高騰は今後も続く為、生産コストの増大を転嫁できるか課題である」「欧米中との開発競争に勝てるかが、日本の自動車メーカーの将来を左右する」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…総じて金型需要の低迷に関する声寄せられた。「金型業界全般に明るい兆しはみられない。原材料価格高騰の影響がとても大きい」「自動車業界の需要がコロナ以前に戻っておらず、金型需要の回復も遅れている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「7月半ば過ぎから秋に向けて少しずつ改善に向かう兆しがある」「今後の見通しも不透明」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じて自動車業界の動向を不安視する声寄せられた。「メーカーの独り勝ち、中小企業の利益は減少しており、国の補助が必要」「概ね横ばい」「海外での生産を進めていく限り、国内の製造が少なくなっていく。また、人件費も見直していかなければならず、競争力の低下は避けられない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しに

については「国内生産へシフトしてくれればいいのだが今後も海外生産が主となる。また、製造へ携わってくれる人材も不足していくだろう」とのコメントが寄せられた。

『**機械器具**』…「取引先の組織再編により生産調整を受け、売上減となっている」とのコメントが寄せられた。

『**衣料・繊維加工**』…総じて、原材料価格の高騰、製造現場の高齢化を不安視する声が多かった。「原材料の価格高騰に対し、価格転嫁が追いつかない状況が続いている。これにより廃業する業者が目立ってきている」「売上、販売は新型コロナ以前までに回復をしてきているが、原材料価格の値上げが続き利益がほとんどない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料価格の上昇分を価格転嫁出来るかが今後の最重要課題」「職人の高齢化が当面の課題」とのコメントが寄せられた。

『**食品**』…総じて、原材料の高騰と販売価格の値上げに関する声が多かった。「販売価格の値上げにより、需要は低迷。市場競争と小売業者からの価格締め付けにより、値上げは満額とはいかない」「原材料価格の高騰により、値上げせざるを得ない状況。GWは去年よりも販売状況は良かったものの、それ以外の期間は変わらないように思われる」「原材料の値上げ分をどう転嫁していくかが課題」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「原材料不足や値上げ等により、販売休止や製造中止となる商品が発生するのではないかと思われる」「暗くはないが不透明」とのコメントが寄せられた。

『**飲料**』…「4月より各資材の値上げが始まり、販売価格への転嫁について了承が得られていない。そのため製造コストが上がり収益を圧迫し始めている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今期は販売量を維持しているが、来期は需要減に伴い減少の予定。製造コストが上がりながらも、販売量が減ると採算がかなり悪化する」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「運転手の待ち時間の料金発生等残業時間の削減の案内が運送業者数社から届いている」「少しずつ行事も復活しているが、手探り状態で開催している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	7.9	50.0	42.1	▲34.2	上昇
売上高	39.5	34.2	26.3	13.2	下降
採算	15.8	42.1	42.1	▲26.3	下降

【建設業】 景気ムード…【低調】

『**総合建設**』…総じて同業者間の競争激化を懸念する声が多かった。「コロナ禍やウクライナ戦争による経済への影響は大きく、資材や製品の値上げが続き、建設費の上昇は止まらない。企業（施主）についても収益の上昇した企業と低迷する企業の二極化が進み、設備投資も同様に二極化している。事業計画の延期や中止も数多く発生している。この影響は中小のゼネコンにとっては今後も厳しい状況となってくる」「公共工事はある程度安定的に受注が確保できている。民間工事は価格競争がますます激化している」「需要の停滞、コスト増、利益率の低下が生じている」「資材高騰の影響は高止まり感がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「経済の影響により、競争激化や事業予算の圧縮の為に工事費のダンピング等、今後も厳しい状況は続くと思われる。人手不足や働き方改革等による事業への影響も2024年問題（トラックドライバーの時間外労働時間を上限年960

時間に制限)に合わせて発生するだろう。生き延びる為には、特異性を発揮して収益の確保を図る必要がある」「民間工事の受注は低価格競争が今後も続く。企業全体の採算にも影響してくる」「人手不足、建設コストの増加は今後も続くだろう」「コロナが収束し、大きなマイナス需要はなく持ち直しを期待」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…総じてコロナ収束後の需要回復を期待する声が多かった。「ウッドショックから立ち直りつつある」「原材料の値上がりの影響はとても大きい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「コロナ5類により対面機会が増え、業況は戻っていくと思う」「資材高騰の影響は今後も続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『建設関連』…総じてコロナ後の期待と不安の両面に関する声が多かった。「公共工事も含め、工事件数が年々減少している。昨年、原材料の仕入価格や電気料金の高騰があったが、販売価格への転嫁が充分に出来ていない。今年度の値上げ交渉をまとめることが喫緊の課題」「産廃にかかる行政の対応・遅延が散見され、産業の活性化に支障をきたしている」「建築資材の高騰により新築物件数が減少傾向にあったが、高値のまま定着し物件数も落ち着いてきている。弊社の主たる業務の浄化槽工事は下水道普及により年々厳しくなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「半年先まで受注が決まっている。業況は良くなっていくだろう」「燃料・電気料金の補助金がいつまで続くか分からない状況に加えて、全体工事量の低迷が予想され、厳しい状況は今後も続くと予想」「堅調な需要が見込まれる」「仕事量は横ばい、もしくは増加傾向。しかし人材確保が困難。時代の流れや変化に伴い高い賃金を提示しても人材が集まるわけではない。人材確保が大きな課題」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「仕事があっても人員不足の業者が多い」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…「物価高騰により設備投資を控えている企業が多い。新規の建物が減少。ハウスメーカーも建築資材の高騰により新規の取引額が15%以上値上がりしており、新築棟数が伸び悩んでいるようだ。土地の開発等も盛土条例により苦戦。リサイクル工場ではRC 砕石の在庫が過当。コンクリ受入を制限している」「今後は大型工事の受入が決まっており期待大」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…総じてコロナ後の期待と不安の両面に関する声が多かった。「コロナ5類移行で少しずつ活況が出始めている感じで、工事案件は増加傾向である」「コロナも落ち着き、以前の様な動向に戻りつつある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「過当競争で厳しくなる」「工事の受注は多く見込めそう」「コロナ融資の返済が始まり、資金繰りが厳しくなる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「広見商店街から東への道路(左富士臨港線)の工事が進み、住宅の新築が増加。早く東へ抜けて車がスムーズに通過できるようになると良い」「熱海の盛土問題などの影響をかなり受けている。伊豆方面を中心に残土処分費等は高騰を繰り返し、一方依頼金額は現状維持のままでは依頼を諦めざるを得ない。伊豆方面の依頼をお断りするのは大きな痛手となっている」「富士駅北口再開発が動き始めていて明るい話題だ」「インボイス対応が急務」「リニア工事が始まりそうな様子で期待大」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	10.7	78.6	10.7	0.0	横ばい
売上高	25.9	63.0	11.1	14.8	下降
採算	14.3	60.7	25.0	▲10.7	横ばい

【卸 売 業】 景気ムード…【 低 調 】

『**機械器具**』…総じてコロナ5類移行に伴う景況回復に関する声が多かった。「官公庁、民間需要とも業績は前期に比べ上昇している」「製品の納期が安定してきた。以前のような極端な長納期品は減少した。原材料(特に輸入品)の価格上昇に伴い、製品の値上げが続いている。部品(更新や補修用)の受注・引き合いは順調であるが、新規の設備計画が減少している」「生産について、半導体不足が解消されつつある為、メーカーも標準在庫を増やす傾向にある。販売については、元々あった中古需要がコロナの影響で更に増加し、逆に新品の販売は苦戦。需要については、コロナ5類移行に伴い、新規の飲食店や店舗販売が増加傾向」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ここに来ての株価上昇、円安が気になる」「省エネ、省人に関する機器の新設や更新需要が徐々に増えてくるのではないかと思う。メーカー各社が、省エネやCO2削減などに対応した新型機器を順次発表しているので、顧客に迅速に紹介したい」「コロナ5類移行により新店舗や飲食店の動きが活発になってきた様相。業界全体として耐えてきた分の振り戻しが見込める為、明るい見通しである」とのコメントが寄せられた。

『**自動車部品**』…「昨年同期と比較して4~5%回復したものの、一昨年と比較すると7~8%程落ちている。車検台数にあまり変化はない。諸々の物価高騰の影響で、車検整備に関する費用はできるだけ抑えてほしいというユーザーの声もあるようだ。大型車検センターの影響も大きい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価高騰と賃金のバランスが安定しない限り景気回復は難しいと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「家庭でのエネルギー費用・日用品等が値上がりしているため、住宅投資まで資金がまわらない。この為、全国的に住宅着工が減少しており、さらに資材高騰で売上利益ともに減少」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「輸入木材は欧米での着工が厳しいため、日本向けに赤字でも輸出してくる可能性がある。この影響で国産材も値下げするだろう」とのコメントが寄せられた。

『**紙**』…「回復傾向にある」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…総じて製紙原料の減少を不安視する声が多かった。「ペーパーレスで古紙が減少している。その反面、メーカーの生産調整で古紙は品物によっては余り気味のものもある。輸出も中国が動かないと思うようには回っていない」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…「業界全体では、コロナ禍以前の水準には届かないが回復傾向にある。また、経済活動が再開しても元の立ち位置には戻れない会社は不安を抱えていると思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「メーカーの投資は慎重であり、その分受注回復も遅いのではないか」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…総じて中国の影響による鋼材需要の減少に関する声が多かった。「世界的な鉄鋼製品需要減により生産量も減少」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「鉄鋼製品需要の減少は続くだろう。これに伴い原料である鉄鋼石、石炭及びスクラップの需要に活気はなく、当面は横ばいまたは弱含み」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…総じて製紙生産量の鈍化と仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「原料古紙不足による生産調整が続いている」「値上げの品目が未だ少なからずあり、今後も続く気配の為、電力やガソリン等企業活動での必須品もあり、今後の動向は全く油断できない状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「雑古紙の活用がポイントとなる」「今や地方の中小零細企業も世界経済の影響を大きく受け、更にコロナ融資の返済もあり前途多難」とのコメントが寄せられた。

『**食品・事業協同組合**』…「昨年度と比べてしらすの水揚げ量は増加傾向だが、昨年度までの不漁の影響で各業者共に在庫不足のため、卸値は相変わらず高値の状態が続いている」「食品関係の中小企業の合理化合併化が進んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の

見通しについては「しらすの仕入価格は今後も高値が続くものと思われる。諸経費が高騰しており、販売価格を上げたとしても利益を確保することはかなり難しくなってくる」「原料高に対応して売上は上がると思う。中小企業の合理化合併化でM&Aが進んでいる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「富士市に冷熱関連の業者が少ない為、一部のメーカーの独占傾向があり、情報が少なく金額面・サービス面で損をしている事業所が少ない」「人流が回復して来たので、今後の景気回復に期待する」「全国チェーンのドラッグストアや小規模小売店の出店が多く、地方独自のお店が少なくなっていて寂しい」「早くウクライナ戦争が終戦してほしい。戦争が落ち着けば経済が活性化するであろう」「紙の街富士市に、古紙原料商として何に頼っていいのかわからない」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	26.3	36.8	36.8	▲10.5	上昇
売上高	42.1	31.6	26.3	15.8	横ばい
採算	26.3	26.3	47.4	▲21.1	上昇

【小売業】 景気ムード…【低調】

『各種食料品』…総じて物価上昇を不安視する声が多かった。「一般小売は堅調であり不動の強さがある。コロナで不況だった観光関連の需要もようやく復調の兆しが見えてきた」「コロナ禍も落ち着き、人流が戻りつつある。値上げの影響もあまり感じられない」「相場が上がったが販売価格に転嫁できない。売上減を考えると、少しずつしか値上げできない」「お菓子業界は働き方改革、原材料高騰などにより厳しい環境にある。ただその中から新しい多種多様なサービスが生まれている。顧客のニーズも多様化しており、先を読んで時代に取り残されないことが必要」「コロナ5類への移行により、オンライン販売のモール閉鎖が相次いでいる。これまでオンライン販売に力を入れていたが、今後は店舗販売に力を入れていく必要が出てきた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナも収まり、ますます良くなっていく」「値上げにより、消費者が財布の紐を締め始めてきたように少し感じるが、付加価値をつける努力をして、顧客にアピールできるようにしたい。商品企画力が試されているときだと思う」「仕入の見直しをして、粗利を上げていきたい。新規営業を増やして取引拡大を狙う」「楽観視はできないが、先を読み新しい事に挑戦していける企業にはチャンスがある」とのコメントが寄せられた。

『飲料』…「茶葉の需要低迷による生産過多が10年前から続き、今後も市場価格が下がる傾向にあり、生産農家が減少している。一方、国の方針として茶葉の輸出量が増加している。抹茶と煎茶を区別すると、これまで抹茶に偏っていたが、徐々に煎茶の輸出が増加している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「需要低迷による生産過多が続くだろう。茶葉の生産農家を始め、問屋・小売店が減る傾向が続く。業界全体の動向は芳しくないが、日々の営業活動では期待が持てる。一部の富裕層や若者からのニーズをしっかりと捉え、丁寧なサービスでお茶の魅力と文化を発信していくことが重要だと思う」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「大型テレビの需要が伸びている。生活様式が変わりダイニングルームが広くなった事で、テレビの大型化が進んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しに

については「電気代高騰によりエアコン使用を控えるのは適切ではない。フィルター掃除等エコな使い方を発信していきたい」とのコメントが寄せられた。

『**生花**』…「行動制限がなくなったことで、家計の支出動向が広範囲に変わり、様々な消費の単価が見直される機会になるだろう。コロナ前の消費行動に戻ってきている」「生産者の減少は課題である。コロナ収束傾向により販売、需要については多少上昇しているように思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「販売単価が下落する中、仕入れコストや営業経費が高騰していて、資金繰りの厳しさは当面続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『**日用品・雑貨**』…「2022年度の玩具市場は過去最高の売上水準になったというニュースがあった。少子化は進んでいるが大手メーカーは大人需要をうまく取り込み確実に成長している。我々も見習いたいと思う」「コロナが収束に向かう中、訪日外国人や人々の外出機会が増え、化粧品の需要も増加傾向にある。しかし、韓国・中国の化粧品の売上が大きく伸びている一方、国産メーカーの販売額は二極化しており、国産の売上増は一部のメーカーに限られている」「需要が伸びず路面店は苦戦している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「この傾向は今後も変わらず続いていくものと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**自転車**』…「自転車の価格上昇に伴い、需要の低下が続いている。メーカーも在庫過多な状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「メーカーも在庫過多の解消のために、今後は値下げもあり得るかもしれない」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「市役所農政課が後押ししている富士のほうじ茶プロジェクトのお陰で、ほうじ茶の販売が定着している。食材への添加物としても成功しており今後も期待できる。また、景観としての富士山と茶畑も国内外から多くの流動が期待できる」「吉原祇園祭は二日間とも多くの人出でにぎわい活気に満ちていた。露天商の配置が一面ずつ交互になり歩道、車道含め歩きやすかった。市外からも多くの訪問があり、吉原の観光活性化に強く寄与している」「CNFに関する問合せが全国から寄せられるようになった」「中心市街地の再整備の予定があり、工事が完成するまでは人が集まりにくくなっている様子」「吉原祇園祭が4年ぶりの通常開催となり、当店としては大変ありがたかったが、露天商をブロックごと互い違いに出店させるという警察の指示は、何を期待していたのかは不明だった」「富士駅北口の再開発がいよいよ具体的になってきており、期待をもって見守りたいと思う。駅北だけが発展するのか、富士駅南も良い影響を受けて変化するのか今後10年、地域に住む我々の意識・行動にかかると思う」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	29.4	41.2	29.4	0.0	下降
売上高	41.2	35.3	23.5	17.7	下降
採算	23.5	41.2	35.3	▲11.8	下降

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『**クリーニング**』…「コロナ5類への移行により、除菌・抗菌への対策が減りはじめた。前年の値上げの影響が、4月以降に出始めている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来期も今期並み、もしくは悪化傾向になるだろう」とのコメントが寄せられた。

『**運輸・倉庫**』…総じて業界特有の課題を不安視する声が多かった。「燃料の値上げがあり大変」「貨物の出荷が減少しており、復荷も減少している。トラックに関する不安を煽るコマーシャルが盛んに流れているが、トラックにも様々あり何でも運べるわけではない。翌

日着の荷物が当日でないと決まらない事等、業界特有の監修も他の受注を受けにくくなっている一因である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物流業界は今後大変になる。2024年問題もあり、前途多難である」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「大手メーカーの不祥事、半導体不足問題も少しずつであるが解消され、トラック等のシャーシも生産が増加し、ボディー塗装の需要が高まっている」とのコメントがあった。

『不動産』…総じて供給過多という声が多かった。「手持ちの宅地分譲地の販売・需要が伸びていない」「中古住宅を売りたいという客が増えている。核家族化が進み、空き家の処分が進んでいる。今後、家屋に対する税制の見直しなどで、空き家の処分は更に増えるのではないか」「分譲地の供給過多が止まらない。それにも関わらず、ハウスメーカーや建売事業者は、更に分譲地を求めている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「社会経済活動が活発化しているのか、不動産取引に関する問合せは増加傾向。しかし、価格面で折り合いがつかず成約までには至らないだろう」「エンドユーザーに直接売るのはリスクがあると感じる」とのコメントが寄せられた。

『求人広告・広告デザイン』…「コロナ 5 類移行後、求人需要は横ばい状態。今後は上昇するのか、下降するのかの様子を見定めている状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「競合他社による、過当競争が激しい状況。商品単価 0 円も横行している状態。利益率の悪化が予測される」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…総じてコロナ融資に対する不安の声が多かった。「コロナ禍を経て、中小、零細企業も回復傾向にあるが、飲食、建設業において厳しい状況が続いている。業界として資金繰り相談が増えつつあり、また 10 月より始まるインボイス制度への対応が急務になっている」「インボイス対応、電子帳簿対応は、利益に直結せずむしろ損失拡大」「インボイス対応がピンチとなるかチャンスとなるか、それによって二極化していく」「人材育成、人材の採用に関してのニーズは高まっている」「昨年まで、コロナ禍で新たに顧問先になる事業者の売上高は落ちていた。その各顧問先は、まだ回復しているという実感はないが、企業活動に関する相談はあり、これらをいかに改善に繋げられるかが課題である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナ融資の返済が始まり、今後資金繰り支援依頼が増加するのではないか。また後継者問題は常に抱えている状況で、廃業の選択や中小の事業承継問題が多くなってくるだろう」「官公庁のオンライン化、民間での非接触化などで、実際の書面作成が不要となるケースが増えている。これらの業務が減るため、データの作成や作成に関する相談業務など、これまでメインではなかった仕事の割合が増してくるか想定される」とのコメントが寄せられた。

『旅行業』…「コロナが 5 類に下がり、スポーツ合宿等の動きはコロナ前に戻りつつあると見える。一方、未だ保守的な思考の団体も見受けられる」「コロナが 5 類に分類され、経済活動が戻りはじめ、旅行等の需要が増えて好転してきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当社は新しく客室を増やす計画である。活発化するスポーツ界に認知度を広め、来場者増・売上増を目指す」「観光需要については、今後も期待できそうである」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「コロナ 5 類移行により人が集まる機会が増え、売上増加が見込まれる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナ 5 類移行後のサービス変更に柔軟に対応していきたい」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「仕入れ値が上がっているが価格に転嫁しにくい状況である。激安店が適正価格になれば、状況は変わってくると思われる」とのコメントが寄せられた。

『飲食』…「電気料金など生活にかかるコストの増加で、消費者の財布の紐がきつくなり、外食にかかる費用が下がっている」「週末はどこも一定の売上を確保できつつあるが、平日の需要はまだ低いままである。夜メインで営業しているところはまだ厳しいだろう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来年のコロナ融資の返済の見通しが暗

く不安である」「夏を過ぎれば今までのように制限がない状況が当たり前になり、年末にはかなりの需要が回復するだろう」とのコメントが寄せられた。

『写真』…「着物衣装のネットレンタル、着付け、撮影サービスを行うフリーランスが増加しており、急激に写真業界が変化してきている。店舗・法人であることの意味が薄れてきている」とのコメントが寄せられた。

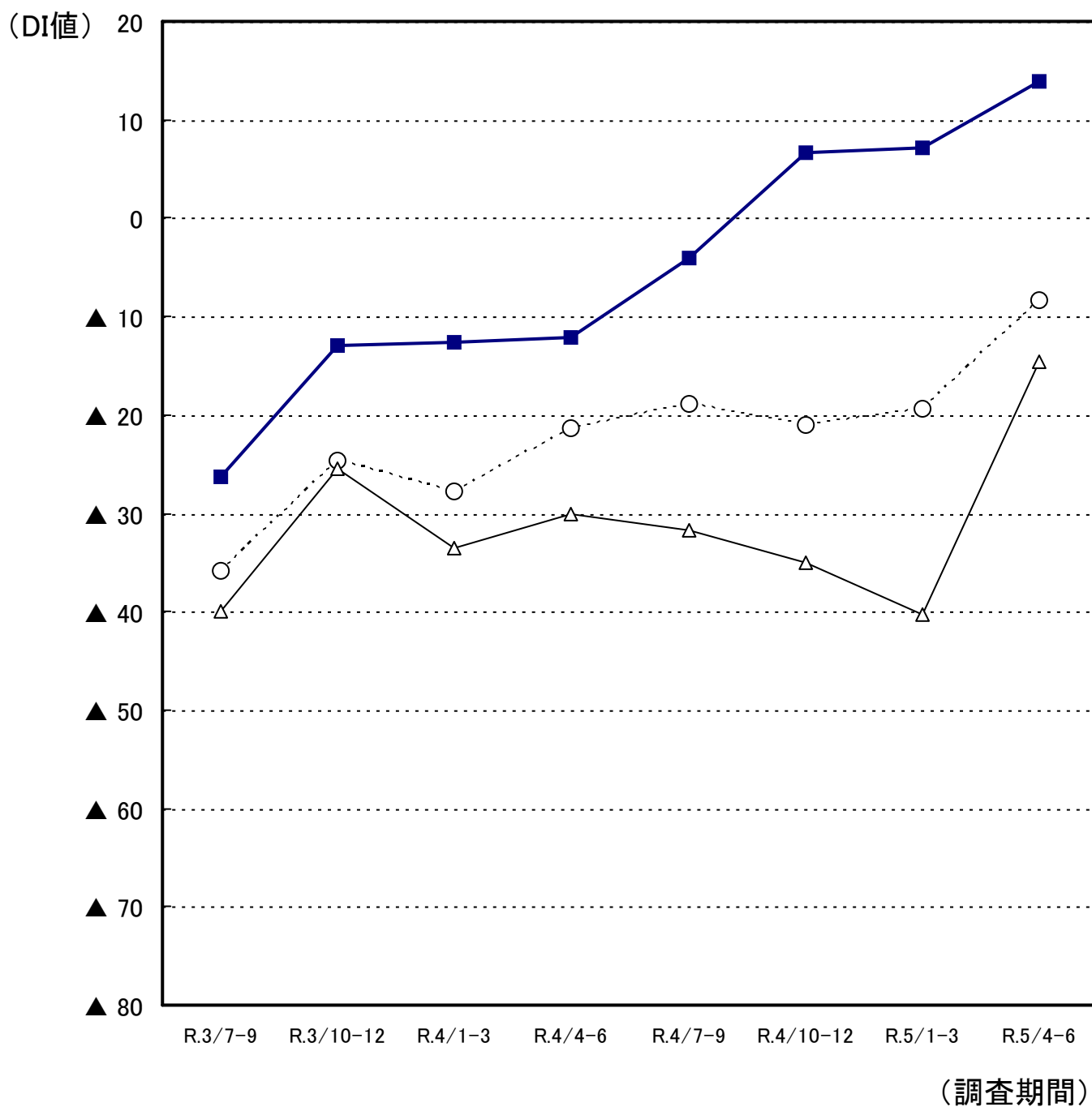
『イベント看板』…「コロナ禍における影響もだいぶ収まり、通常のイベント開催の予定に戻ってきている。燃料高騰に伴い、材料費の値上げが続いている」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「色々な観点から、紙の利用が減少しており、家庭紙以外の紙を運んでいる会社としては、岐路に立たされている」「外国人観光客が予想より早く回復したこともあり、ホテルや観光施設では働く人が足りていない状況が続いているようだ」「全体的に建設・不動産等関連は需要が伸びず、岳南地域の経済が良くなっているとは思えない」「市街地に近い宅地での企業進出の申し入れがある。業界による企業誘致が可能なケースもあるが条件は厳しい。土地利用に関して規制緩和等の検討をすべき」「富士川かりがね橋が今年度中の完成に向けて形が見えてきた」「富士市の体育館の建設工事が始まり期待している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	39.3	35.7	25.0	14.3	横ばい
売上高	31.0	48.3	20.7	10.3	上 昇
採 算	25.0	50.0	25.0	0.0	上 昇

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

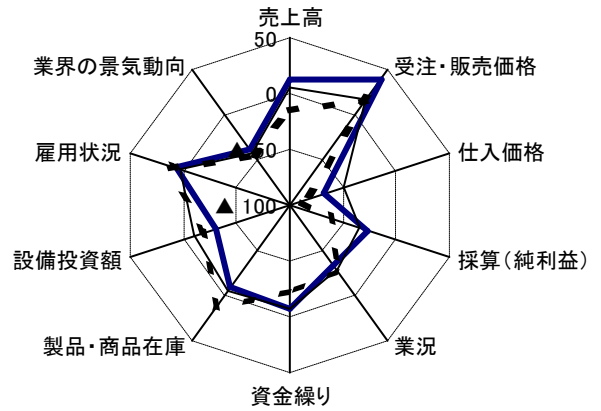


レーダーチャート

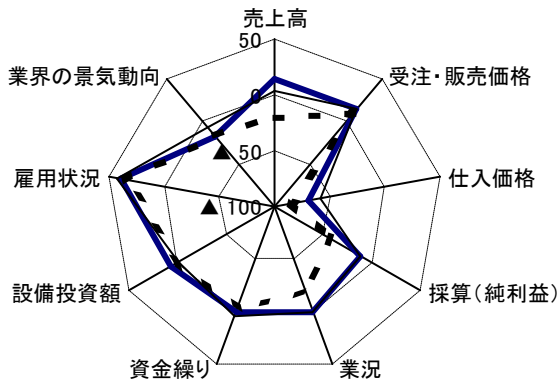
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

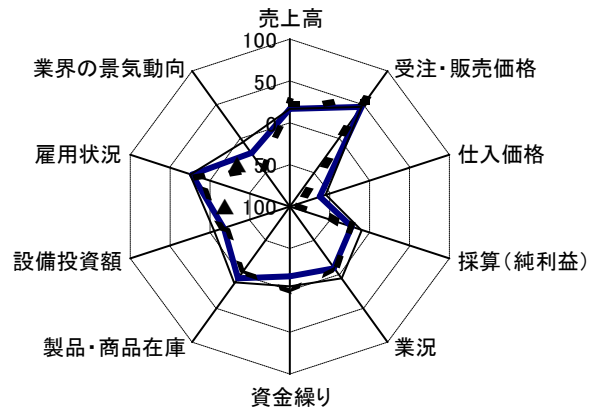
【製造業】



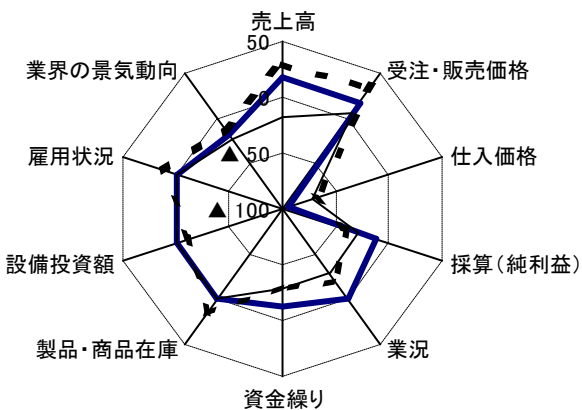
【建設業】



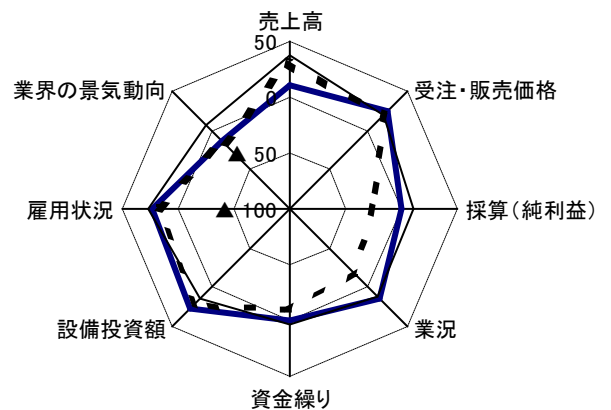
【卸売業】



【小売業】



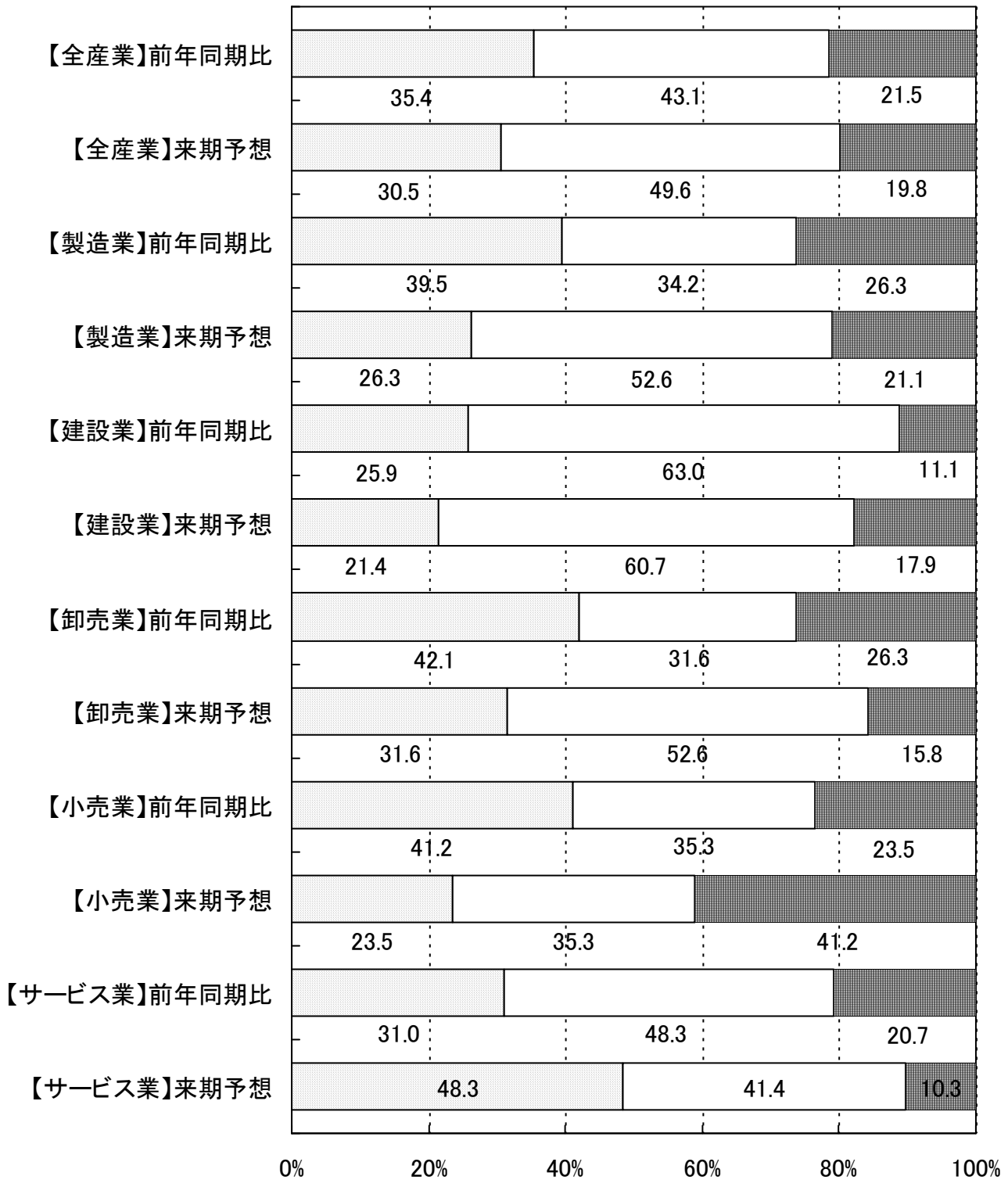
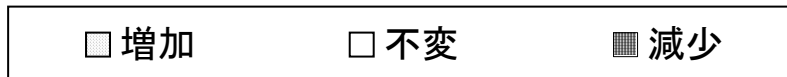
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 人員不足</p> <p>その他 過当競争</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 過当競争</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 人材不足</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 その他の需要の低迷／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 販売価格値上げ難／設備老朽化</p>
サービス業	<p>1 位 販売価格値上げ難</p> <p>2 位 人件費高騰</p> <p>3 位 その他の需要の低迷／売上減に伴う利益減／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 人員不足／人材不足</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2023年6月14日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（経済面）県内の景気は、資源高や供給制約の影響を受けつつも、持ち直している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に全体としては緩やかに増加している。個人消費は緩やかに回復している。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は弱含んでいる。雇用・所得環境をみると、労働需給は改善の動きが足踏みしているものの、雇用者所得は緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース）は、前月比低下している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、低水準ながら、このところ前年を上回ることが多くなっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、供給制約の影響を残しつつも、持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、緩やかに回復している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：23/4月2.2% → 23/5月35.5%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に全体としては緩やかに増加している。

（短観・設備投資額：22年度計画17.8% → 23度計画8.4%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：23/3月▲4.3% → 23/4月0.4%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：23/3月3.0% → 23/4月5.0% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 弱含んでいる。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：22/2月4.3%⇒3月1.0%<速報値>)

自動車・同部品は、供給制約の影響から弱めの動きとなっている。二輪車・同部品は供給制約の影響から持ち直しの動きが一服している。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、供給制約の影響から持ち直しの動きが一服している。化学は、弱めの動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、増加している。紙・パルプは、一部に弱さがあるものの、持ち直しており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善の動きが足踏みしている。(→)

雇用者所得：緩やかに改善している。(→)

(有効求人倍率 季節調整値：23/3月1.23倍⇒23/4月1.24倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比23/3月3.5%⇒23/4月3.8%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。

(23/5月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(17件<前年比：▲5.5%>)
負債総額(34億円<同：85.0%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：23/3月末+1.8%⇒23/4月末+1.3%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：23/3月末+1.4%⇒23/4月末+1.0%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース) (水準：23/3月1.292%⇒23/4月1.291%)

以 上